

心肺蘇生法の流れ

現在、新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応することとされています。心肺蘇生法を行う際は、オレンジ色で「コロナ対応」と書かれた事項に沿って、対応してください。

2 119番通報・AED手配の依頼

周囲の人に119番通報とAEDの手配を依頼

周囲に協力者がいない場合は、次の手順に移る前に、自分で119番通報することを優先してください。また、近くにAEDがある場合は、AEDを取りに行ってください。



4 胸骨圧迫

コロナ対応



胸骨圧迫前に、ハンカチやタオルを傷病者の鼻と口に被せる。マスクや衣類で代用可能。



傷病者に「普段どおりの呼吸」がない場合、あるいは「普段どおりの呼吸」が分からない場合は、心停止と判断し、胸骨圧迫を開始

- ・胸の真ん中にある胸骨の下半分を、重ねた両手で強く、早く圧迫を開始します。
- ・肘を曲げず、垂直に圧迫し、傷病者の胸が約5cm沈み込むように強く圧迫します。
- ・圧迫のテンポは、1分間に100～120回の早いテンポで圧迫します。

1 反応(意識)の確認



傷病者の耳元で声を掛け、肩を優しくたたいて反応を確認

呼び掛けに対して、何らかの返答または目的のあるしぐさがなければ、「反応なし」と判断します。

コロナ対応



傷病者と救助者の顔があまり近づきすぎないようにする。

3 呼吸の観察



胸や腹部の動きから、傷病者が「普段どおり」呼吸しているか判断

胸や腹部の動きがない場合、約10秒間確認しても呼吸の状態が分からない場合、死戦期呼吸が見られる場合は、「普段どおりの呼吸なし」と判断します。

コロナ対応



傷病者と救助者の顔があまり近づきすぎないようにする。

しせんき 死戦期呼吸

突然の心肺停止直後には、しゃくりあげるような、途切れ途切れの呼吸が見られることがあります。この呼吸を「死戦期呼吸」と呼びます。

死戦期呼吸は正常な呼吸(普段どおりの呼吸)ではありませんので、心肺停止と判断し、直ちに胸骨圧迫を開始してください。

心肺蘇生法の流れ

現在、新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応することとされています。心肺蘇生法を行う際は、オレンジ色で「コロナ対応」と書かれた事項に沿って、対応してください。

2 119番通報・AED手配の依頼

周囲の人に119番通報とAEDの手配を依頼

周囲に協力者がいない場合は、次の手順に移る前に、自分で119番通報することを優先してください。また、近くにAEDがある場合は、AEDを取りに行ってください。



4 胸骨圧迫

コロナ対応



胸骨圧迫前に、ハンカチやタオルを傷病者の鼻と口に被せる。マスクや衣類で代用可能。



傷病者に「普段どおりの呼吸」がない場合、あるいは「普段どおりの呼吸」が分からない場合は、心停止と判断し、胸骨圧迫を開始

- ・胸の真ん中にある胸骨の下半分を、重ねた両手で強く、早く圧迫を開始します。
- ・肘を曲げず、垂直に圧迫し、傷病者の胸が約5cm沈み込むように強く圧迫します。
- ・圧迫のテンポは、1分間に100～120回の早いテンポで圧迫します。

5 人工呼吸



傷病者の鼻をつまみ、空気が漏れないようにして、息を約1秒吹き込む

息を吹き込んだ際は、目視で傷病者の胸が上がるのを確認します。もし、胸が上がらない場合でも、息の吹き込みは2回までとし、10秒以上胸骨圧迫を中止しないでください。人工呼吸後は、すぐに④の胸骨圧迫を再開します。

コロナ対応



成人の心停止に対しては、人工呼吸は行わない。

子どもの心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。

※子どもの心停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が高いと考えられるからです。

6 AEDの使用



AEDの電源を入れ、正しい位置にパッドを装着
電極パッドは、胸の右上(鎖骨の下)と胸の左下(わきの5～8cm下)に貼り付けます。

電気ショックの実施



電気ショックが必要な場合は、ショックボタンを押す
ショックボタンを押す際は、必ず傷病者から離れ、誰も傷病者に触れていないことを確認してから、ボタンを押してください。以後は、AEDの音声メッセージに従ってください。

7 心電図の解析



AEDが自動的に心電図の解析を実施

心電図を正確に解析するため、解析中は傷病者の体に触れないでください。解析の結果、電気ショックを行う必要がある場合は「ショックが必要です」、必要ない場合は「ショックは不要です」などの音声メッセージが流れます。

ショックが必要

ショックは不要

心肺蘇生の再開



心電図の解析の結果、電気ショックを行う必要がないと判断された場合は、直ちに④⑤の心肺蘇生を再開してください。以後は、AEDの音声メッセージに従ってください。

■乳児・小児への胸骨圧迫の方法



乳児

指2本で行います。圧迫の強さは、胸の厚さの約3分の1が十分に沈む程度に行います。弱く圧迫したのでは、効果がありません。



小児

体格に応じて、片手または両手で、胸の厚さの約3分の1が十分に沈む程度に圧迫を行います。

■乳児・小児へのAEDの使用法

- ・乳児・小児にもAEDを使用することができます。
- ・AEDの種類によって、成人用と小児用の電極パッドが入っている機種や、成人用モードと小児用モードの切り替えを行うことができる機種があります。
- ・小学校に上がる前の子ども(乳児や幼児)には、小児用パッドや小児用モードを使用します。
- ・小児用の電極パッドや小児用モードがない場合は、成人と同じパッド・モードを使用してください。ただし、パッドの位置は、身体の前後に貼るなど、パッド同士が接触しないように貼ってください。